

所也とも見えたり、太古の俗いひつぎし所、其説已に同じからずとは見えなれど、日神其種子をとり得給ひて、天狹田長田に殖しめられしより、世の人始て粒食する事を得しといふに至ては、異なる説ありとも見え、稻の如きは、保食神の腹より生れしとも、大宜津比賣神の目より生りしともいふなり、名づけてイネといひ、亦轉じてはシネといひし義の如きは不詳、註倭名鈔に、按ずるに稻熟に早晚ありて、其名を取る、早稻はワセといふ、晚稻はオクテといふと註せり、ワセといふは、ワはハナリ、ハといひワといふは轉語也、ハとは早といふが如し、セとはシネといふ語を合呼びし也、オクテ又はオシネともいふなり、オクといひオシといふ、共に是晚の義也、テといひネといひ、またセといふは、皆轉語にして、シネといふ語を合呼びし也、

〔倭訓栞前編三〕いね 稻をいふ、飯根の義なるべし、いなともよむは轉せる也、後漢書に日本宜稻と見ゆ、物理論に、稻者漑種之總稱といひ、爾雅翼に、稻米粒如霜性尤宜水、一名稌、而有黏有不黏、今人以黏爲稌、不黏爲秔とみゆ、稌はもち、秔はうる也、

〔本朝食鑑穀一〕稻訓伊

釋名中略必大平野按、稻者漑種之總稱也、又言通呼、秔糯二穀爲稻、或謂專指糯以爲稻也、然本邦自古指、秔糯以爲稻也、古者惟有早晚之分、今以早中晚而分之、其稻、苽、乾之後、經春、籩、而爲米、是粳米而俗稱、字流之者也、秔與稷同、

集解略○中 夫稻者本邦古來爲米之總稱、而農家別謂在田茂生者爲稻、米之不脫稗芒穗稗爲粳、訓毛

美、此亦農家之通稱也、稻有早中晚之分、早稻者熟實少、若雖有實多稻、美者不能久保、中晚者雖遲實多、稻美、就中以晚白米爲第一、作上饌之食、

〔本朝食鑑華和異同〕稻

今本邦處處所種、謂大唐米者似粳而粒小、有赤白二色、其熟最早、六七月收之、而米亦多、恐是綱目之秈米也乎、